

# 修了生通信 あしはら

2023年3月

部落解放・人権大学講座  
2022年度 修了生通信

## コロナ禍を経てきた解放大学、そしてこれから

大阪同和・人権問題企業連絡会 理事長  
部落解放・人権研究所 理事 柄川 忠一

2023年1月25日、2022年度の第118期部落解放・人権大学講座が修了の日を迎えました。

我が国の新型コロナウイルス感染症に関する感染防止対応等が具体的に進められてから3年が経過し、この間、人権啓発研修や各種の啓発事業等についてもさまざまな変化がもたらされました。

インターネットを活用したオンライン講座の試みや、日常生活においては衛生面を配慮し、いわゆる「三密」を防ぎつつ行動することなど、これまでに経験したことのない状況が長く続いてきました。その一方で、オンライン講座の進め方に関する試行錯誤を重ねたことで、啓発・研修の運営方法についても新たな知見・経験を得ることができたと考えています。

インターネットは世界規模でつながり、政治やビジネスの活動を進める上で不可欠になっていることは勿論ですが、私たちの日常生活においても、今や無くてはならない存在です。インターネット上の情報があらゆる人々の行動に相当な影響を与え、社会の共通認識を構築する力をももっていることは周知のとおりです。

このようなインターネット社会の中で、人権侵害や差別表現、誹謗中傷、そしてアウティングなどの問題が顕在化しています。「部落差別解消推進法」に基づき実施され、2020年6月に法務省から公表された「部落差別の実態に係る調査」の結果においても、懸念される実態が窺えます。

インターネット上での特定個人や不特定者を対象とする誹謗中傷等の差別表現や、結婚・交際の場面における差別が発生していること。正しい理解が進む一方で、偏見・差別意識が依然

として残っていること。インターネット上での部落差別関連情報を閲覧する人の一部に差別的な動機が見られることなどが報告されています。

このような状況を背景に、法律の見直しや、各地方自治体のさまざまな条例の制定や見直しが進められていますが、多くの課題は解決に相当な時間を要し、対応の限界に直面しているものも見られます。

あらゆる差別の禁止と人権侵害の被害者の救済、人権相談等を担う国内人権機関（人権委員会等）の設立などを含めた包括的な人権の法整備が早急に求められています。

2022年は全国水平社が設立されて100年という大きな節目の年でした。

これを記念して、文豪・島崎藤村の小説「破戒」が記念映画として制作されました。全国で、大変多くの方々が鑑賞されて大きな反響を呼んだと聞いています。

私も鑑賞させていただいた一人ですが、鑑賞されたお一人おひとりにとって、それぞれの心の中で感じるものがあつたでしょうし、それはご自身のこれまでのご経験や感性から得られるものかもしれません。

私自身も部落解放・人権大学講座の修了生（75期）ですが、受講を通じて得られる大きな収穫は、講座の内容で理解を深めてさらに学ぶということの他に、数多くの「仲間との出会い」であり、「仲間づくり」であると思います。

今後もさまざまな学びをつうじて大切な仲間と出会い、人権尊重のネットワークを大切にしていきたいものです。

## 2022年度の解放大学（118期）プログラム

### 対面とオンラインの併用で実施した118期

部落解放・人権大学講座は2020年度から2年間、新型コロナウイルスの影響によりオンラインを基本に開講してきました。その間、受講生のみなさんからは「対面がいい」、「職員と会いたい」とのお声をたくさんいただきました。そのようなことから、2022年度は新型コロナウイルス感染予防を考慮しつつ、また、オンラインの利点も生かしつつ、開講日と修了日、およびフィールドワークや自己啓発学習など、一部対面での実施を含めたプログラムを設定しました。

日程としては、年末および年度末の時期を極力避け、7月上旬に開講、翌年1月下旬までの約7ヶ月間、週1回ペースで全24日間のプログラムとなりました。また、今年度もオンラインでの講座を部分的に共有し、当研究所が主催する人権啓発東京講座（全12日間）との合同プログラムとして実施しました。

開講日は、大阪会場と東京会場をオンラインでつなぎ、解放大学と東京講座でワークショップを同時開催で行いました。また、解放大学、東京講座ともに開講当初から班編成を行い、班のメンバーとの交流を通じて、共に学ぶ仲間としての意識を高めるようにしました。

7日目までは部落問題（歴史や現状）を軸に、その後15日目までは、多様な差別・人権問題に関する講義へと移りました。1コマの講義は講師による講演を90分、休憩を挟んで受講生同士のネット上での4～5人のグループにわかれてのディスカッションを20分を行い、そこで出たことを含めて、講師との質疑応答を残りの30分で行うという進め方をしました。毎回、必ず質問が出て、オンライン上でのディスカッションも活発でした。各講座は約1ヶ月、録画動画として視聴できるようにもしました。

### フィールドワークや自己啓発学習を対面で

フィールドワークは全回、受講生が現地を訪れ対面で実施しましたが、7月の堺市での回は、新型コロナ新規感染の第7波の影響で、欠席される方が多かったです。9月は生野（在日コリアンの歴史と文化）と西成の2コース（野宿労働者の現状）に分かれて行い、最後に10月に箕面と高槻の2コースに分かれ、部落問題と地域における人権のまちづくりを体感して学びました。

さらに、3年ぶりに「自己啓発学習」にも取り組みました。まず、自己啓発学習①「当事者の語り」（2日間）では、被差別部落、在日外国人（マイクロアグレッション）、障害者、セクシュアルマイノリティの4つの人権課題にとりくむ当事者や支援者の方々より対面でご講演いただきました。講演時間は60分とし、その後には班単位での討議を50分を行い、講師にも各班をまわって議論に加わっていただきました。講師が体験された差別の実態、そのときの感情などを聞き、共感したり、自身の経験と重ね合わせたりすることをねらいとし、その後続く「私の水平社宣言」の作成につなげました。

（次頁下へつづく）



生野でのフィールドワークの様子

## 2022年度 第118期 部落解放・人権大学講座 プログラム・日程

回	グループ1	グループ2	実施方法	午前 講座1	午後 講座2
				9:30-12:00	13:10-15:40
1	7/1(金)		対面	【開講式】 【開講ワークショップ】 梶山 武志さん	【マジョリティ特権を考える】 出口 真紀子さん
2	7/8(金)		オンライン	【部落問題のいま】 川口 泰司さん	【部落問題の歴史(前近代)】 寺木 伸明さん
3	7/13(水)		オンライン	【差別をなくす社会システムのあり方】 北口 未広さん	【部落問題の歴史(近現代)】 渡辺 俊雄さん
4	7/20(水)		オンライン	【同和・人権行政】 奥田 均さん	【同和・人権教育から学ぶこと】 森 実さん
5	7/26(火)	7/27(水)	FW①	【差別戒名からみた部落問題】 高橋典男さん (オンライン)	【部落問題学習フィールドワークⅠ】 (堺市)
6	8/31(水)		オンライン	【司法と人権】 大川 一夫さん	【部落解放運動がめざすもの】 赤井 隆史さん
7	9/5(月)		オンライン	【ビジネスと人権】 松岡 秀紀さん	【企業と人権～部落問題を踏まえて】 柄川 忠一さん
8	9/13(火)		オンライン	【ジェンダーについてアップデート しましょう!】 谷口 真由美さん	【障害者差別解消法の改正を見据え、 誰も取り残さない社会へ】 松波 めぐみさん
9	9/22(木)		オンライン	【在日コリアンの歴史】 文 公輝さん	【日本社会と外国人労働者】 望月 優大さん
10	9/29(木)		FW②	【ホームレス問題と自尊感情】 北村 年子さん (オンライン)	【フィールドワーク】 (西成)野宿労働者の人権 or (生野)在日コリアンの歴史と人権
11	10/4(火)		オンライン	【ハンセン病問題】 黄 光男さん	【見た目の差別～「見た目問題」と ルッキズム】 外川 浩子さん
12	10/11(火)		オンライン	【LGBTQをとりまく人権問題と働き やすい職場について】 神谷 悠一さん	【日本のHIV・AIDS問題の今】 高久 陽介さん
13	10/19(水)		FW③	【隣保館とこれからの地域福祉】 川口 寿弘さん (オンライン)	【部落問題学習フィールドワークⅡ】 (箕面市 or 高槻市)
14	10/26(水)		オンライン	【水俣病問題の歴史と現在】 田尻 雅美さん	【アイヌ「問題」】 竹内 渉さん
15	11/2(水)		オンライン	【自死(遺族)問題】 和泉 貴士さん	【合理的配慮と創造的思考― 平等を実現するための方法】 飯野 由里子さん
16	11/9(水)		対面	【自己啓発学習1-① 当事者の語り】 マイクロアグレッション 丸一 俊介さん	【自己啓発学習1-② 当事者の語り】 部落問題 潮崎 識衣さん
17	11/17(木)		対面	【自己啓発学習1-③ 当事者の語り】 障害者問題 玉木 幸則さん	【自己啓発学習1-④ 当事者の語り】 セクシュアルマイノリティ問題 にじいるi-Ru
18	11/22(火)	11/24(木)	対面・ 班活動	【自己啓発学習2-①】	【自己啓発学習2-②】
19	11/29(火)	12/1(木)	対面・ 班活動	【自己啓発学習2-③】 「私の水平社宣言」発表(各班)	【自己啓発学習2-④】 「私の水平社宣言」発表(各班)
20	12/6(火)	12/8(木)	対面・ 班活動	【自己啓発学習2-⑤】 「私の水平社宣言」発表(各班)	【自己啓発学習2-⑥】 「私の水平社宣言」発表(各班)
21	12/14(水)		対面・ ワークショップ	【職場のハラスメント】 養父 知美さん	【人権相談のあり方】 桑野 里美さん
22	2023年 1/11(水)		オンライン	【人権研修の基礎基本】 堀井 悟さん	【差別禁止法と人権】 谷川 雅彦さん
23	1/16(月)		オンライン	【国際的、諸外国の人権状況と 人権諸条約について】 小森 恵さん	【メディアと人権】 下村 健一さん
24	1/25(水)		対面	「私の水平社宣言」発表(期全体)	【修了ワークショップ】 梶山 武志さん 【修了式】

## フィールドワーク、対面学習、班学習

自己啓発学習②では、各班お二人の助言者にサポートしていただきながら、これまでの解大講座をふりかえり、「学びとなったこと」や「よくわからなかったこと」を共有した後、修了課題となる「私の水平社宣言」を作成しまし

た。「私の水平社宣言」は全国水平社創立から100年の年、水平社宣言の精神をふまえて、自分自身にあるさまざまな差別についての体験や意識をふりかえり、今後の自分を見据えた「宣言」を文章にして表現しようというものです。



班員が作成した文章を一人ずつ発表し、それに対する意見やアドバイスを2回にわたって交わした後、各自が最終版を完成させました。

「修了の日」には、各班から一人ずつ選ばれた方から、期全体の場で発表いただきました。子どもへの人権教育の大切さや、ご自身の業務を人権の視点をもってどのように展開させていくのか、また、これまで自身が悩んできたことと人権問題が結びついたことを打ち明けてくれた発表もありました。気づきや学びが期全体に広がったようで、解放大学が大切にしている「共に学ぶ仲間」を実感しました。

本来の業務と並行しての解大受講は、大きな負担であったことと思います。それでも57名の受講生全員が無事に修了いただけたことを事

務局として嬉しく思います。解放大学で学んだことを出会った仲間と共に、今後益々発展させていただくことを期待しています。

(解放大学事務局)



修了の日の「私の水平社宣言」の発表の様子

## 修了後のつながりを大事にしたい

コロナ禍の中の2年間にわたる「オンライン解大」を経て、2022年度の第118期解放大学では、一部対面実施も含めた24日間のプログラムを57人が受講し、無事全員が修了証を受け取りました。

昨年度まで解放大学の事務局を11年間（第101期から117期まで）務めた私は、転職先で人権に関わる仕事とともに、大阪同企連の担当者にもなったことで、118期解放大学を受講することとなりました。

事務局の11年間、修了生に推奨し、お願いしてきたことは、長期にわたって時間と労力を注いで受講した解放大学でのつながりを修了後もぜひ大事にしてほしい、ということでした。

118期では自分自身がそのことを率先してやっていきたいという思いで、修了生幹事代表に手を挙げました。各班の修了生幹事の皆さんとともに、班の交流はもとより、エネルギーは必要ですが、期全体の交流の取り組みを盛り上げていきたいと考えています。

118期は「水平社100年」の年の解放大学として、修了課題でもある「私の水平社宣

言」の作成に取り組みました。助言者の方々のサポートをいただきながら、対面での語り合い、学び合いができました。

フィールドワークもまた現地で行いましたので、訪れた地域、そして人々との出会いを体感することができました。

これらの講座の終了後には任意参加の懇親会も行ったりもしました。後になってわかりましたが、全ての班がそうしていました。

一方、オンラインで実施した講座では、会場に行く必要はなく、職場や自宅で受講できるほか、録画動画を視聴することもでき、オンラインのメリットを感じるころもありました。

受講中にあった一つのエピソードとして、受講生の一人が提案した「寄せ書き」があります。講座の中で学んだ『全国部落調査』復刻版出版事件裁判の応援メッセージを集めようと、解放大学と東京講座の有志が協力しました。

7ヶ月にわたる講座を終えて、1月25日の修了の日は皆さん晴れやかな表情をされていました。修了生幹事会では、今年の秋頃に現地研修プラス懇親会を実施する計画です。

118期のみならず、オンラインで実施された116期、117期を含め、解放大学全体の同窓会を盛り上げていきたいと思えます。

(118期修了生幹事会代表 川本和弘)



受講生の提案で作成された寄せ書きでできた布

## 修了生のご活躍

第115期修了生のNTTビジネスソリューションズ(株)の山中恵子さんに、解大受講の思い出と社内での人権啓発研修の取り組みについてご寄稿いただきました。

\*\*\* \*\*

2019年度の解放大学第115期は、新型コロナウイルス感染拡大により、全24回の内、最後のレポート発表と修了日の2回が中止となりましたが、それまでの講義やフィールドワーク、自己啓発学習(宿泊研修を含む)は対面で実施された年でした。

西日本電信電話株式会社から弊社へ来たばかりで解放大学を受講し、部落問題にとどまらず、多くの人権課題について学び、充実した経験ができました。

多くの企業が人権啓発に様々な工夫でとりくむ中、弊社では座学や人権標語などの啓発教育にとどまっていて、解放大学で得たことをどう応用し展開するかを考えました。

そこでまず行ったことは管理者に対し「リバティおおさか」のある浪速地区でフィールドワークを実施することでした。一般的な知識にとどまらず、同和地区の現地を歩き当事者との対話から学ぶという目的で、結果的に3年間取り組み、延べ約200人が参加しました。

水平社博物館の駒井館長に現地までお越し頂き、水平社の歴史を含む部落問題についての講義をしていただきました。そのあと部落解放同盟浪速支部の浅居前支部長に地域を案内いただき、「今も続く部落差別の実態」についての知識と気づきを参加者各自に得てもらいました。

もうひとつの取り組みは、全従業員対象の「人権フォーラム」です。LGBTQやハラスメントなどの時事テーマで、専門的な知見をもった講師を招き、講演と対話を行っています。

2023年2月には、NTTグループの研修施設のオープンスペースを会場に、リラックスした雰囲気の中で開催しました。この日は「AIと人権～新しいテクノロジーの光と影～」と題して、九州大学の成原慧准教授に講演いただき、質疑応答もたっぷり時間をとって行いました。ビッグデータやAIなどの先端技術の活用により人々の生活の質の向上や新たな産業の創出が期待される一方で、プライバシー侵害やマイノリティなどへの差別など、新たな人権問題が生じていることを学び、それへの対応とともに考えました。今回は解放大学や大阪同企連でつながりのある方々にも参加いただきました。

人権問題というと堅苦しく、難しく考えがちですが、充実した人生のため、互いの人権を尊重していくことの大切さを念頭に、次回は何をテーマとするか、今から楽しみにしています。



2月の人権フォーラムで司会を務める山中さん



## 修了生からのメッセージ

残念ながら、報告できる修了生の交流は今年度も103期以外はありません。一方、オンラインで実施された116期、117期では修了後に交流をされた班があり、それ以前に交流のあった期の修了生幹事会代表の方々とともに、メッセージをいただきました。

\*\*\* \*\*

11年前の2012（平成24）年に解大で学びました。約半年間、座学やフィールドワーク、宿泊を含む班別での自己啓発学習、修了レポートの作成等、多岐にわたっていました。幸い同期の絆も強くなって、昨年末も12人で11回目の懇親会を開催しました。集まるたびに解大時代の話に花が咲き、盛り上がります。今後も年一回仲間の集いを取り組んでいきます。（103期 我妻さん）



この3年間は、コロナ感染の状況を見ながら、久しぶりの修了生交流会を企画したこともありましたが、残念ながら実現しませんでした。しかしながら、政府の対策も5月には変更になることが決定し、2023年こそは、しばらく会えずにいた仲間との再会を期待し、修了生交流会を再開させたいと考えています。この3年間で、ITツールを活用した仕事やコミュニケーションがずいぶん浸透し、定着した感じではありますが、一方で、対面でのコミュニケーションの重要性も再確認されたのではないかと感じています。修了生の皆様も、講座ではなかなか行えなかった課外でのコミュニケーションを積極的に行ってください、修了後の継続的な互いの刺激を求めあっていただければと思います。

（107期 小松さん）

私事ですが、昨年末にコロナの感染者となりました。（久々の忘年会が原因か？）ほとんど熱も出なかったのですが、保健所指導の下、5日間の自宅療養（隔離）を経験しました。部屋から出られず、不自由で、周囲にも迷惑をかけてしまいました。その間、解大で感じたことが思い出されてきました……。私たちが修了式を終えてから8年が経ちました。大事にしたいものは何か？あらためて立ち止まって考える機会となりました。修了生同期との交流も忘れずに、コロナ禍を乗り越えていきたいと思います。

（108期 音無さん）

109期は修了生研修を1年に2回実施していくことを個人的に決め、そのように現地研修を行ってきました。2020年より実施できなくなり、みなさんからは、「そろそろ集まりませんか？」、「楽しみにしています」などのお声をいただいています。何とか今年は活動を再開させたいと思っています。少人数、他の期との合同など、バリエーションを変えて実施したいと思っています。ひとりでは実行できませんので、ぜひ皆さまのご協力をお願いします。（109期 飯田さん）

「今年こそ研修会（同窓会）を開催するぞ！」って、なんか毎年つぶやいているような気がする。111期の研修会は2019年の11月を最後に、ここ3年開催できていない。コロナ禍がここまで続くとは思ってもよらなかった。しかし、最近では行事が再開しており、「3年ぶりの開催」という言葉が増えてきた。5月には5類に移行するということなので、今秋こそは研修会が開催できると思っています。同期のみんなと旧交を温め、おいしいお酒が飲めること（研修とちやうんかい!!）を楽しみにしています。

（111期 赤井さん）

118期修了生の皆さん、修了おめでとうございます。さてコロナの扱いが5月にも変わるような……。コロナ禍でのさまざまな制約により、行動や考えを取捨選択せざるを

得なかったのですが、罹患者に対する人権的視点での対応がマスコミやインターネットで比較的大きく取り上げられたり、LGBTQの人々を含むマイノリティへの考え方が大きく変わったように思えます。これから制限が緩和する中で、本当に必要な行動を真剣に考えましょう。コロナ前の「不必要」な行動をしないよう、ここ数年の経験を生かしましょう。（113期 市原さん）

新型コロナウイルス感染症の影響で最初から最後まで解放大学はオンライン受講、同期の皆さまと直接顔を合わせることができずに卒業となりました。グループゼミのメンバーとは卒業してから助言者を含めた交流会で初めてリアル面会出来ました。これまで顔を合わせたコミュニケーションが当たり前でしたが、人と挨拶する、お話す際も以前と比較してすいぶん変化したように感じます。人との出会いを大切に、解放大学での学びをいかにしながら、これからも常に学習する姿勢での取り組みを心がけて頂ければ幸いです。（116期 B班 石馬場さん）

私たち116期はコロナウイルス蔓延により、グループゼミを含む全ての講座がオンラインによる実施となりました。そのような中でも、私が所属したC班はメンバーに恵まれ、グループ討議終了後にオンライン懇親会も実施し、充実した時間を過ごしました。半年の講座修了後も定期的に班のメンバーで集まり、人権関連施設の訪問や懇親会を実施して交流を深めています。それぞれを尊重し合う皆さんとの出会いに感謝し、今後も楽しく語り合える会を継続していきたいと思えます。（116期 C班 松村さん）

118期解大修了おめでとうございました。117期A班は、オンライン受講が約9割を

占める中、唯一オンライン環境が整わない一部の受講生が会場参加した班でした。やはり対面ということもあり、雑談を通し交流を深め、修了後、4、9、12月と四半期に一回、参加できるメンバーと助言者の先生で同窓会を開催し、近況報告や解大時の思い出話に花を咲かせています。何を学んだかは忘れていますが(笑)、誰と学んだかは覚えているという事を実感しています。

（117期 A班 友上さん）

解放大学117期を修了したのはついこの間だと思っていたのに、もう118期が修了したとは、時間が経つのは早いですね。フルリモートでの約8ヶ月間、初めはぎこちなかったオンライン画面上での意見交換が懐かしく思い出されます。解放大学でさまざまなことを学びました。やはり一番大事なのは「あらゆる差別をなくすために行動する！」ということです。子どもの人権、外国人の人権、企業と人権・・・知識とともに少しでも行動を起こせる人間になりたいと思います。私は班の幹事をさせていただいています。コロナ禍ではありましたが、解放大学を修了してから同窓会を2回実施することができました。最初の同窓会では、実際に目の前で初めてお会いしたので不思議な感覚でした。2回目はフィールドワークも取り入れました。年齢や仕事の中身も異なる私たちが解放大学という“縁”をつうじて出会うことができました。今後もこの“縁”を大切に交流を深めていきたいです。（117期 B班 磯貝さん）

皆さん、メッセージ有り難うございました。来年度は実施報告のメッセージとなることを期待しています。

## 同窓会のメール登録を

解放大学や研究所に関するイベント情報など、解放大学同窓会メールを配信しています。今後の連絡のためにもぜひ登録ください。

交流の取り組みについてもご報告いただければ、うれしいです。

メール登録・変更については、お名前、メールアドレス、できれば修了期を下記の事務局アドレスにメールでお知らせください。

kaidai40@blhrrri.org